

各教科学習における留意事項について

令和4年4月28日改訂

甲府市立相川小学校

文部科学省, 山梨県及び甲府市のマニュアルを受けて, 校内で確認した内容を次の通りお知らせします。▲は, 実施ができない内容 →以降は, 対応策です。

各教科共通事項

◇地域感染レベル3・レベル2の場合は, 次の①②は行わないこと

- ①「児童が長時間, 近距離で対面形式となるグループワーク等」
- ②「近距離で一斉に大きな声を出す活動」

国語

▲学級一斉での「音読」は, 行わない。

社会

○校外学習では, 見学先, 車内などでの感染防止対応が必要→車内が密にならないように, 乗車定員数と児童数のマッチング。乗車時, 降車時の手指消毒。マスク着用。当日の健康チェック。お弁当の食べ方(距離を取る・対面しない)。車内の換気に十分留意する。

○校外学習では, 換気が悪く, 人が密集する場所での学習活動は行わない。

算数

○数学的な活動では感染防止に特に気をつけるよう指導する。

▲2年「かけ算九九」の暗唱, 唱え方を学習する活動は, 一斉には行わない。

理科

△班ごとに行う実験→教師の演示実験, デジタル教材動画の視聴

○観察や調査を行う学習→十分な距離を保ち短時間で行うか, 教科書のデータやデジタルコンテンツを利用する。

▲6年「動物のからだのはたらき」では唾液を使用する実験は行わない→NHKのコンテンツを利用する。

▲地域感染レベル3・レベル2の場合は近距離で活動する実験や観察は行わない。

○理科室は2方向以上の換気を十分に行った状態で使用することができる。

生活

▲1年の幼稚園との交流や昔の遊びなど外部との交流が計画されているもの→手紙での交流

▲2年の町探検→写真や動画で見るなどの工夫

▲1,2年合同で交流が計画されているもの

音楽

▲単元を入れ替えるなど年間指導計画を見直す工夫を行い、歌唱や口に触れる楽器の演奏の学習については地域感染レベル3・レベル2の間は見合わせる。

○音楽室の使用について、次の条件で使用を可能とする。①一度に入室する児童を16名以上にしないこと。②二列で前後左右に広がり、左右は2m、前後は2m程度の間隔を確保すること。→マスクを着用している場合であっても前後方向及び左右方向ともできるだけ2m空けること③同一の方向を向いて行うこと。④マスクは着用すること。⑤2方向以上の窓や入り口を開放して、換気に留意すること。

▲立っている児童の飛沫が座っている児童の顔へ付着する飛沫感染リスクを避けるため、立っている児童と座っている児童が混在しないようにすること(高低差をつけない)

○連続した練習時間はできるだけ短くすること。常時換気を原則とし、飛沫感染に留意し、近距離での大声を徹底的に避けること。

図画工作

▲「造形遊びをする活動」において特に「共同してつくりだす活動」は、グループや多人数になると思われる。(例:段ボール等での家づくり)

▲用具や材料を共用するような活動→用具の貸し借りは行わない。授業前と授業後に必ず手洗いをする。

◇地域感染レベル3・レベル2の場合は近距離で活動する共同作業等の表現や鑑賞の活動は行わない。

家庭

▲被服実習を行う際には、近距離での作業を避ける。

○学校の備品は共用しない。共用しない用具も使用後に消毒をする。

○授業前と授業後に必ず手洗いをする。

▲地域感染レベル3・レベル2の間は、調理実習は見合わせる。

体育

- 陸上運動のリレー→バトンを使用しないなどの工夫次第で可能
- 球技・ボール運動で集団種目やチーム戦→十分な距離感があれば複数でのパスなどの技能を高める活動は可能。ボールは使用前史用語に消毒をする。
- 体づくり運動・集団行動→個人で行う表現や短縄でのなわとび、ストレッチは距離間がとれば可能
- マスクの着用について→学習の場への移動や距離間が取れない場合は着用,十分な距離保て、換気が適切な場合は不要,マスクは体育着のポケットから落ちないように
- 授業前と授業後に手洗い,手指消毒を徹底する。
- 「はずして良い」と指示するが,「心配・不安な」場合は着用していて良いと指示
- 指導者,見学者はマスク着用,ただし,熱中症に十分に注意する
- 体育の授業は,可能な限り,屋外で行う。梅雨の時期,高温のため校庭が使用できない場合など,1クラス単位で4方向の窓を開放し,換気を十分に行った上で,体育館を使用する。

道徳

- ▲児童が長時間,近距離で対面形式となるグループワーク等を行わない。
- ▲近距離で一斉に大きな声を出す活動を行わない。

外国語・外国語活動

- ▲ペア・グループでのやりとり(活動)例:握手,ハイタッチ
- ▲外国語教室の使用は中止
- ▲ALTの給食時の教室訪問(低学年)は中止
- ▲歌,チャンツ(児童が長時間,声を出す活動)→リスニングとして扱う。換気と身体的距離を確保し,マスクを着用した上で短時間で行う。
- ▲全員での発話・発声→単語やセンテンスをリピートする時,グループや列ごとに分けて発話する。

総合

- ・体験的な活動については,感染防止対策を図った上で実施をする。